

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (九州)		乗用車販売店（販売担当）	・販売量としては上向いているので、3か月後の売上も徐々に増えていく。
		観光名所（従業員）	・夏期休暇に入り、また熊本方面の道路改善により多くの客が来場すると予測はしているが、家族連れ・団体ファミリー層が減少しているため、来客数に不安要素がある。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・鮮魚は厳しい状態が続いている。ウナギは高騰しているが、丑の日は売れるので、期待している。夏になると鮮魚を食べなくなるので、刺身までも需要が減れば、非常に厳しい状態になる。
		百貨店（営業担当）	・売上伸長率、商品単価共に好調である。大河ドラマ・クルーズ船等の外的要因に加え、紳士衣料、雑貨や婦人雑貨等の自家需要商品が依然として堅調である。改装により売場移動が多く、客は案内図を参考に店内を回遊し、新鮮な目でフロアを見ている。文化ホール催事、父の日のプレゼント、お中元ギフトセンターへの来場、お中元店外受注拠点でのお中元カタログ展開で家族での来店機会が増加し、購入促進が期待できる。
		百貨店（経営企画担当）	・5月は例年よりも気温が低く、夏物商材の販売に影響がある。最近では若干回復傾向にある。
		百貨店（売場担当）	・現在の状況では衣料品関係が売れないため、売出しが前倒しとなる可能性があるため、これに期待したい。天候要因にも注視している。客単価、購買客数共に落ちているので、衣料品関係が良くなることに期待したい。食品については落ち着いている。特に悪い状況ではないが、この1か月を注視したい。
		スーパー（店長）	・サッカーワールドカップ、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック等のスポーツ関連や朝鮮半島問題の進展、中国との関係を始めとして、国境を越えた経済の活性化が必要である。
		家電量販店（店員）	・この半年売上に関しては低迷気味だったが、5月に入りその反動が出ている。季節要因であったり、小物等の持ち帰り商品が出ていない状況などで不透明ではあるが、反動が出るというところでは状況は良くなっていく。
		家電量販店（総務担当）	・梅雨入りし、除湿器やエアコンディショナーの需要が高まることと、サッカーワールドカップ開幕による映像商品の売行きに期待している。
		家電量販店（従業員）	・暑くなると冷房器具の需要が増加する。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・最近では平日でも東南アジアからの訪日客が多くなった。大河ドラマ効果もあり、売上は増加する。
		高級レストラン（経営者）	・南九州に人が集まってきている。アジアからの訪日外国人も増え、大河ドラマに合わせてイベントも増加しており、今後に期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・訪日外国人の利用もあり、予約も前年より多くなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・訪日外国人頼みの部分は多いが、予約も順調に推移しており、見通しは明るく期待している。
		旅行代理店（従業員）	・7月以降の予約状況は前年比を上回っており、この傾向が続く。
		タクシー運転手	・スマートフォンの普及により外国人のタクシー需要が格段に増加しており、売上の堅調さにつながっている。
		通信会社（企画担当）	・Web制作やプロモーション予算は、これまでより予算の用意がある上での相談が増えている。
		通信会社（営業）	・毎年3か月期間限定のキャンペーンを展開している。これまでとは違う施策を追加し、販売促進費用も追加しているため、期待値が高い。
		理容室（経営者）	・これから暑くなり、冬よりは来店サイクルがやや早くなるため、良くなる。
		美容室（経営者）	・2～3か月先になると夏場の活性化の時期になるので、美容業界も夏に向けての新しいファッションが入り、客に動きが出てくる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	・観光施設の管理運営について、国内外からの観光客が年内微増傾向と予想される。	
	住宅販売会社（従業員）	・展示場やイベントの来場者数が増加傾向にあり、消費税の引上げまでの期間は駆け込み需要でやや景気は良くなっていく。	

商店街（代表者）	・売上が上向きになる要素が見当たらない。
商店街（代表者）	・少しずつ物価は上昇し、生活に追われていると買い控えが多くなるため、良くなる様子は見当たらない。
商店街（代表者）	・今日北部九州が梅雨入りし、今年は猛暑になると予想されている。商店街では、空調設備がないため、高齢者の来店減少で売上が見込めない。
商店街（代表者）	・夏に向けて販売数は増加するが、商品単価が低いため、売上の増加は見込めない。
商店街（代表者）	・これから梅雨になり、7～8月は高温が予想されている。景気が良くなる要因がないので、今の悪い状況が続いていく。
百貨店（総務担当）	・主力の衣類の正規価格販売が厳しい状況が続いており、6月末からのクリアランスセールに入っても、消費者の消費は依然厳しい状況が続く。
百貨店（営業担当）	・天候要因により来店客数が微減傾向にあるため、今後の浮上要素が見えない。一方でピヤガーデンが好調であることから天候さえ良ければ人出が増え、比例して客足も増加する。
百貨店（販売促進担当）	・訪日外国人の影響や高額品の消費は好調なものの、衣料品の苦戦は続いており、売出し期間も厳しい。
百貨店（店舗事業計画部）	・富裕層及び訪日外国人による時計・宝飾、高級ブランド品等の購買はまだしばらく勢いを保持するが、中間層の購買の目的意識はライフスタイルの変化を受け複雑化しており、従来型の提案方法では訴求効果が難しくなっている。
百貨店（業務担当）	・震災後に売っていたものが大きく売上を落とすようになっている。前年までは発生していた復興需要が落ち着いてきている。しばらくはその反動が続く。
百貨店（売場担当）	・消費が増加する要因がない。
百貨店（マネージャー）	・高額品の動きが引き続き好調であるほか、訪日外国人の増加も続いている。一方で、衣料品・食料品などの動きは鈍くなっている。
スーパー（店長）	・売上の伸びが緩やかであり、急激に景気が良くなることはない。
スーパー（総務担当）	・一定規模の量販店においては、プレミアムウイスキー等の高額商品が品薄となったり、クラフト系商品が売れたりするなど一部に明るい兆しはあるが、当社の環境では生鮮食品を中心に消費者の買い回り選別志向が根強く、特別販売以外ではなかなか売上を伸ばせない展開が続いている。
スーパー（経理担当）	・梅雨が早くなり、夏型商材の動きが悪くなる。
スーパー（統括者）	・個人可処分所得が増加する前に次々と値上げが出ており、個人所得が微増してもしばらくは景気浮揚には至らない。
コンビニ（経営者）	・梅雨入りが例年より早いので、少なくとも良くなる材料は見当たらない。
コンビニ（エリア担当・店長）	・例年より梅雨に入る時期が早く、来店客数に影響が出る。梅雨の晴れ間では極端に客数が増加すると予想されるが、長雨になると客数が前年を下回る。
衣料品専門店（店長）	・地域復興券が追加販売されたが、客の動きが悪く、振興券効果が感じられない。
衣料品専門店（取締役）	・良くなる要因はないので、引き続き企業努力をしていく。
家電量販店（店員）	・今月の気候は寒暖の差が激しかったため、エアコンディショナー、除湿器等の季節商材が非常に動いているが、パソコン関係の販売が落ち込んでいるため、差引きすると変わっていない。3か月先も良くはならない。
乗用車販売店（総務担当）	・今年度は新型車の投入が予定されていないため今後も厳しい状況が続く。中古車販売と車検の件数を伸ばし、売上と収益を確保していくことが必要である。
乗用車販売店（代表）	・変わる期待が持てない。
住関連専門店（経営者）	・大企業ではいざなぎ景気を上回る戦後最長の好景気と報道されているが、地方では全く感じられない。ガソリンや運賃の値上げが経営を圧迫しており、人手不足も深刻になっている。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・今月までの客の動きを見ていると、再来月まで客の動きは変わらない。若干新規客の増加があり、変わらないか、若干良くなる。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・これから初夏に向かい梅雨に入るため、自動車のエアコン等の稼働により、燃料油の販売量増加が見込める。また、6月から7月にかけて、民間企業等にボーナスが支給される見込みなので、ボーナスを原資として購入される車両附属品等の販売に期待したい。

その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・現在のマイナス要因である映画、ファッション業界の動向が不透明であり、今後の予測が難しい状況となっている。良くも悪くも全体景気に影響を与えるよう要因はなく、大きくは変わらない。
高級レストラン（支配人）	・客数は前年比減が続いている。
観光型ホテル（スタッフ）	・3か月先の宴席受注は順調に取れている。
都市型ホテル（スタッフ）	・外的要因がない限り変わらない。
都市型ホテル（副支配人）	・予約が少しずつ間近になっており、日曜日、月曜日の予約も減少している。
旅行代理店（企画）	・客の動向を確認したところ、大きな変化はない。
タクシー運転手	・今後も当市に興味を持った訪日外国人が多く訪れるため、現在の状況は変わらない。
タクシー運転手	・月末にかけてゴルフ等や県外からの客が盛り返してくれた。月初めも盛り返してくれると期待しているが、梅雨になり期待できない。
通信会社（企画担当）	・現在好調ではあるが、これ以上の上向きを期待できる要因がない。
通信会社（営業担当）	・例年販売が落ち込む時期である。
美容室（店長）	・天候に寒暖差があり、体調が優れないという話を客から聞く。その日の天候で客数に変化があるが、これからは少しは良くなっていく。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・介護報酬の改定と市場の伸びから好環境となっているが、今後の人材確保の動きや総合事業の動きが懸念材料として残る。
設計事務所（所長）	・景気は上向きと言われるが、地方には波及していない。また業種によってばらつきがある。世界情勢の不透明さがますます増しており、先の景気は不透明である。
設計事務所（所長）	・今月はやや悪く、その結果が2～3か月掛かるため、この先の状況はやや悪くなるかわからない。
設計事務所（代表）	・景気が良くなる材料が見当たらない。
住宅販売会社（従業員）	・日本経済を支えている輸出産業のうち、自動車に関し対米輸出は関税が上がるため、一時期駆け込み需要があると思われるが、国際情勢が不安定であり、景気は横ばいあるいは下降気味になる。
商店街（代表者）	・今年は梅雨が早いという予報があり、雨が降ると客の出足が鈍くなる。
商店街（代表者）	・ガソリンや食品の値上がりで、客の購買意欲はますます鈍くなる。
商店街（代表者）	・客の様子から商品購入に消極的で、衝動買いは非常に少ない。
一般小売店〔青果〕（店長）	・九州産の野菜が、暑さによりかなり収穫が少なくなり、信州、東北、北海道へ産地が移行する。かなり輸送コストが高くなるため、値段も高くなり、客の需要が低くなる上に商品が高くなるという悪循環になっていく。かなり厳しい状況になっていく。
一般小売店〔生花〕（経営者）	・夏場の花業界は、売行きが悪くなるが、お盆の注文に期待したい。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・暑くなるこの時期は、売上が伸びず、来店客数も減少する。涼しくなる季節に期待したい。急激に売上が伸びることは全く考えられないため、景気回復を期待したい。
百貨店（営業担当）	・国内外の不安定さが消費者に良い影響を与えていない。特に外交を含め手立てを打つ必要がある。日本のリーダーシップに対する不信任感が、今の景気停滞の原因である。
スーパー（店長）	・来店客数は現状厳しい数字で推移している。この2～3か月は前年比の94%～95%で推移しており、この状況はしばらく続く。涼しい日が続いているため、夏物衣料の早期展開も厳しい状況である。競合店もあり各店は販売促進による客数の変動に左右されている。前年と異なる販売促進で売上を確保していく。
コンビニ（経営者）	・このままでは、厳しい状況が続いていく。天候次第で大きく売上が変動するが、本年度の天候は良いという予報なので、期待している。
衣料品専門店（総務担当）	・商業施設間の競合が不利な状況に進行している。加えて、庁舎移転の影響が大きく、状況が悪くなっていくと予想される。

	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・ガソリン高騰等による来客数の減少が懸念される。訪日外国人効果は好調であるが、当市の空港、港共に受入れ能力は限界の状態であるため、飛躍的に便が増えることは考えにくい。	
	スナック（経営者）	・ゴールデンウィークや週末など人出が期待できる日の集客が悪い。特にゴールデンウィーク中の来客数は過去最低だった。ただ海外旅行客数は増えていたので、景気が悪いのではなく消費の方向が変化している。しかし週末の減少傾向から景気の回復を感じることがなく、現在のところ前年を大きく下回っている。	
	通信会社（業務担当）	・単価の下落と閑散期が重なるため、状況は良くない。	
	ゴルフ場（従業員）	・これから先の2～3か月は梅雨時期になり、当日の天候に大きく左右される。また、来場者に困憊の世代が多いため、梅雨が明けても猛暑の場合来場を敬遠される傾向にある。	
	美容室（経営者）	・熊本地震からは2年経過しているが、活力がなく、まだ景気回復にはつながっていない。景気回復に力を注いでくれることに期待したい。	
	音楽教室（管理担当）	・景気が安定してくれば、稽古事の受講を始めるだろうが、まだ経済的に稽古事をする余裕がないようだ。	
	×	商店街（代表者）	・しばらくはこの状況が続く。
	×	スーパー（店長）	・消費者の節約志向は続いており、今後消費が回復する兆しがみられない。また、競合店の出店等もあり、価格競争を含めた競争が激化する。
	×	高級レストラン（経営者）	・3か月先の予約状況を見る限り今月は変わらない状況である。現在問合せがあるので、予約が入ることを期待しているが、確定せず苦戦している。
企業 動向 関連  (九州)		農林水産業（従業員）	・西日本の市況は、回復する見込みである。理由は梅雨による天候不順にある。
		輸送業（従業員）	・外部委託先を含め、6か月先までの生産は満杯である。それでも製造依頼があり当面好調を維持する。
		家具製造業（従業員）	・今後もホテル家具需要は伸び続け、2020年までは2けたの成長が見込める。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年度末提案事項の受注予定案件に見通しが付いてきた。
		化学工業（総務担当）	・一部の工場で実施していた定期修理が終了し、生産が再開された。
		鉄鋼業（経営者）	・回復基調にあった受注量がここ2か月程度連続で減少している。電極・耐火物など副資材の高騰で値上げした販売価格もなかなか浸透せず、現在持っている商談は進んでいない。需要はありそうだが動きにスピード感がなく、先行きの需要が見通せない状況である。
		金属製品製造業（事業統括）	・引き合い数が減少していないので、今後受注量は回復し、それに伴い売上も回復する。
		一般機械器具製造業（経営者）	・従来の受注計画はそれなりに上がってきている。当社の体力が維持できるかが懸念材料である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・4～5月において、主要取引先の装置生産台数の下方修正に伴い受注が低調である。現在の計画では、7月以降持ち直す計画である。
		電気機械器具製造業（取締役）	・対象を絞ることにより売上、利益共に上向き傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・来月より新規モデルチェンジ生産による初期需要が見込める。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・全体的に好調であるが、輸出先を中国から他国へ切り替える必要がある。
		建設業（社員）	・発注が少し増加しているため、今後良くなる。
		輸送業（総務担当）	・運送会社からの値上げも落ち着いてきている。荷主への価格転嫁もある程度は認めてもらい、業界全体として景気が良くなりつつあることを実感している。しかしながら、慢性的な人手不足は変わらない状況であり、せっかくのビジネスチャンスを逃してしまっている。
		通信業（職員）	・今年度の折衝案件が増えており、今後の受注量は増加していく。
		金融業（営業）	・人手不足解消のための外国人採用が地方でも活発になってきた。採用した企業では、日本人よりも良く働くとの意見が多く聞かれる。
	不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が横ばいに推移しており、今後も継続する。	
	経営コンサルタント（社員）	・高価格酒の売上が前年比で増加している。	

	その他サービス業〔物 品リース〕（支社長）	・増収増益企業が多く、ボーナスも期待できる会社が多い。不動産市場が高値推移しており、自宅を売却し、買換えを検討している人が多い。
	農林水産業（経営者）	・6月は梅雨で消費は期待できないが、梅雨明けからの7～8月は、ビールの消費に比例して、焼き鳥等の消費がかなり期待できる。今年は、畜産関係は国内物、輸入物が供給過剰になっており、価格の低迷が予想され、売上が上がっても、利益的には厳しい状況になる。原料は卵価調整が8月まで続くほか、労働力不足が不安な状況に拍車をかけている。
	窯業・土石製品製造業 （経営者）	・焼き物関係については、現在の状況でいけば、期間を考えずに受注できる。
	一般機械器具製造業 （経営者）	・機械設備製作部門では1年分の仕事量を受注していて、当面はこのままのいい状況で推移する。一方で、国内向け需要が増加したことによりコストの引上げが発生する。
	精密機械器具製造業 （従業員）	・前月と生産計画は変わらない。受注先からの受注量が前期に比べると激減し、まだ増産の見込みがない。
	建設業（従業員）	・見積案件が少ない。受注も小さいものはあるが、大型工事が取れない。経済の先行き不透明なため、設備投資に消極的になっている。
	建設業（従業員）	・3か月先は工事受注の期限が先なので、工事が終わるまでは動きがない。工事関係は全体的に多く出る予定もないので、景気は変わらない。
	輸送業（従業員）	・景気が良くなる話はなく、メーカーは発注から納品までの時間短縮化等で差別化を図るため、物流にしわ寄せがきている。運送会社は人手不足等もあり値上げ依頼が多い。倉庫だけで言えばかなり厳しい状況である。
	通信業（経理担当）	・9月までコンピュータソフトウェア受注関連の変動が見られない。下期に向けての準備期間中である。
	金融業（従業員）	・企業の設備投資が増加しているほか、自動車関連企業の生産は高水準を維持している。企業の求人意欲は旺盛で雇用者所得も緩やかに増加してきているが、幅広い業種で人手不足が経営面の障害となっている。
	金融業（営業担当）	・これから2～3か月は梅雨時期に入る。一般消費者の出足は天候に左右されるため、売上等は余り変わらない。
	新聞社〔広告〕（担当者）	・サッカーワールドカップが開催されるが、当地への影響が余り期待できない。
	広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込広告の受注枚数は前年を下回っており、ここ3か月は大きな変化がない。通信販売・健康食品などの業種は好調を継続しているが、スーパーマーケット・百貨店・ディスカウントストアなど折込広告の主要な業種が不調のため、まだしばらくこの状態が続く。
	経営コンサルタント （代表取締役）	・自社ホームページのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がない。
	経営コンサルタント （社員）	・5月の株主総会が一段落するまでは動きが少ない。
	食品品製造業（経営者）	・販売、製造共に年間を通して一番低調な季節になる。
	繊維工業（営業担当）	・在庫を持つ仕事なので、仕事の指示がなかなか出ないようでは、良くならない。
	x その他サービス業〔コ ンサルタント〕（代表 取締役）	・市町村に6月補正の検討を尋ねると、設計や調査・計画の委託業務の追加予算は少ないとの返答が多く、このままでは、設計や調査・計画等の委託業務を請け負っているコンサルタント業界の景気が悪くなる。
雇用 関連 (九州)		-
	人材派遣会社（社員）	・人材派遣業界の2018年問題での動きが出てくる中で、求職者の動きや労働者派遣法の改正による影響などへの対応が求められる状況が続く。
	人材派遣会社（社員）	・引き続き売手市場となる。働き方改革などの影響で、企業からの依頼が増加する。
	人材派遣会社（社員）	・お中元時期の人材派遣の注文は前年同様にある。また、改正労働者派遣法による抵触日以降も引き続き派遣を利用したいという企業がほとんどのため、安定した雇用が見込まれている。
	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・求人情報の様子では、人手不足が深刻である。例えば、飲食店で昼のランチを止めている。また、深夜業務やコンビニエンスストアなど外国人労働者が目に付く。景気は悪くないが、人手不足問題は今後の大きな課題である。

	学校 [ 大学 ] ( 就職支援業務 )	・ 2019年3月卒業生への採用については、各企業共に意欲的に採用活動を行っていると感じる。その背景は、前年度採用不足分の補充、将来的な労働人口不足への対応なども考えられる。景気と求人の動きの関係性がはっきりしないが、企業側の説明を聞くと、国内にとどまらず海外への展開などにかじを切る企業が更に増加している。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	・ ビルメンテナンス業界、医療福祉業界、給食業界などでは相変わらず人手不足の上、特に福岡では商業ビルやホテルの建設ラッシュで構造的な人手不足となっている。最近、老舗の中国料理店が人手不足を理由に閉店した。
	職業安定所 ( 職員 )	・ 新卒の県内事業所からの求人は、今春卒業生対象で前年比26%強の大きな伸びとなった。今年度も、高校卒業生向けの求人受理のための説明会を開催したところ、前年度より10%以上参加事業所数が増加した。県内事業所には新卒採用への強い意欲を感じる。
	職業安定所 ( 職員 )	・ 国内外からの観光客の増加等により宿泊客も増加しているが、調理士やホテルサービススタッフの不足も続いている。今が限界の状況であるという企業の声もある中、現状の維持はできても、一層の需要に対応できるかは不透明である。
	職業安定所 ( 職業紹介 )	・ 今後も求人数の増加傾向と求職者の減少傾向は続き、有効求人倍率は高い水準で推移する。
	学校 [ 専門学校 ] ( 就職担当 )	・ 東京オリンピックの影響を期待したい。
	-	-
x	-	-